

第七回

# 玄蕃・三上書佐展

会場

平成二十六年三月二十八日（金）  
～三十日（日）  
みやこめつせ 美術工芸ギャラリーB



改

上田 雅堂



龍

虎

上田  
雅堂

福寿海無量 上田 雅堂

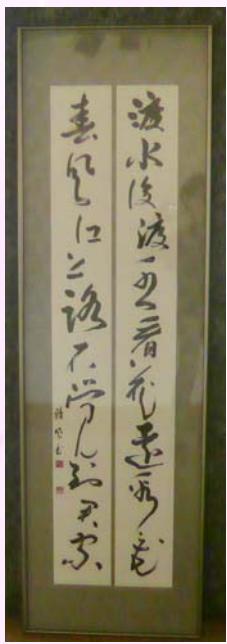


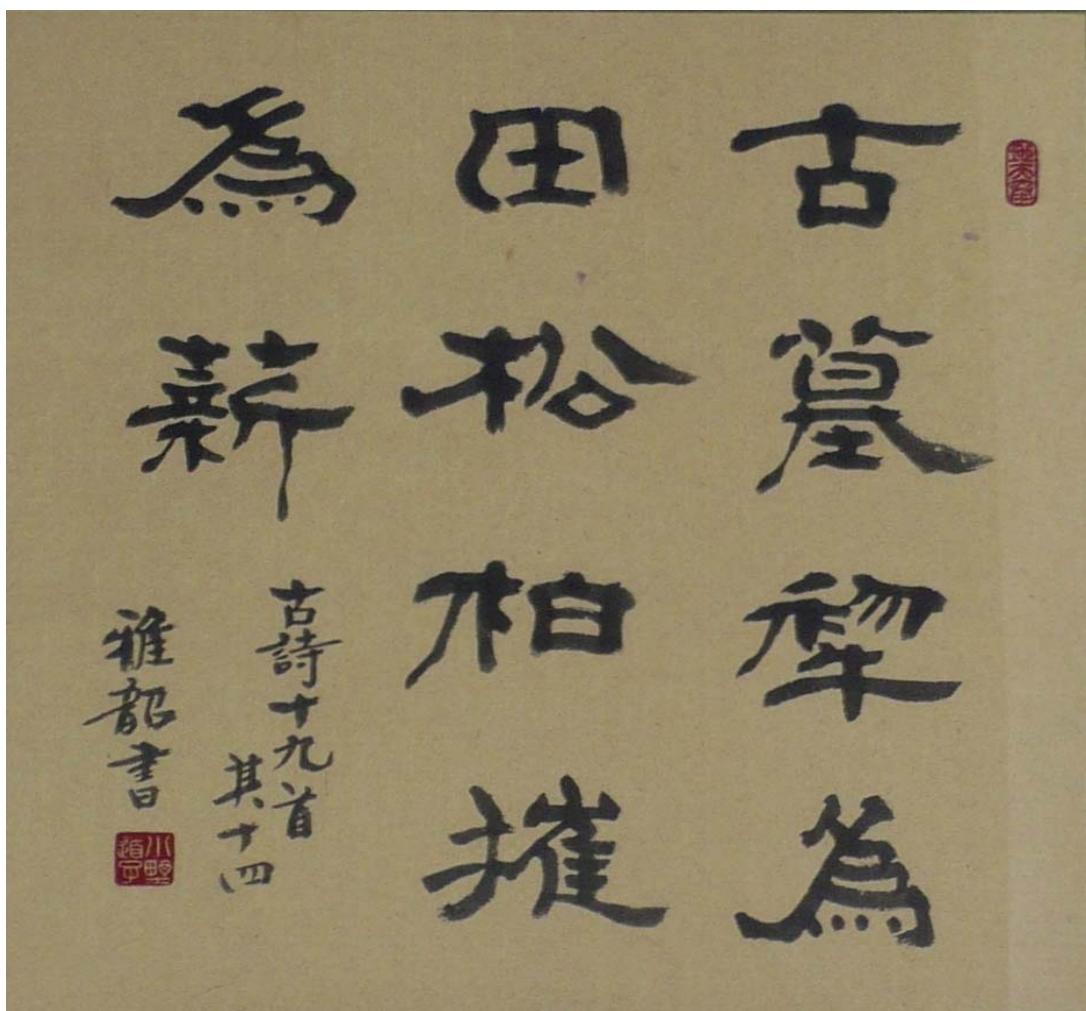
渡水後渡り三看花を還すも  
春風江上に二度花を看る

雅風

水を渡り復た水を渡り 花を看 還た花を看る  
春風江上の路 覚えず君が家に到る (高青丘)

石田 雅風



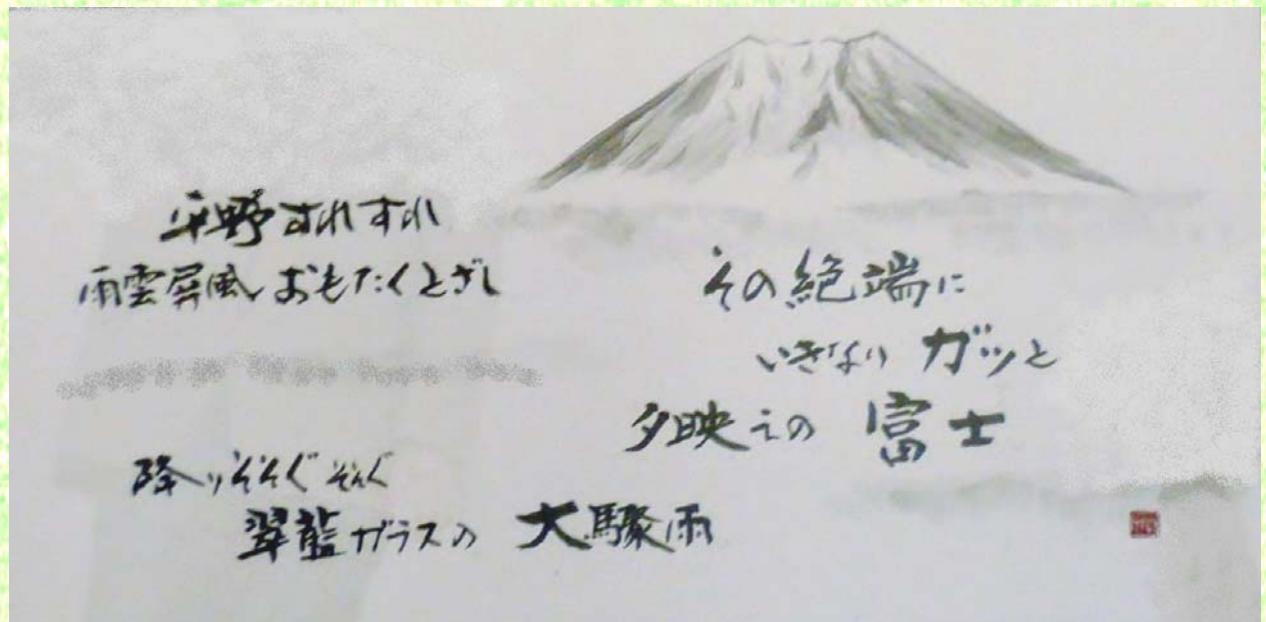


古墓は犁かれて田となり  
松柏は摧かれて薪となる

古詩十九首  
其の十四

小野 雅韶





平野すれすれ  
雨雲屏風おもたくとざし  
その絶端に  
いきなりガツと  
夕映えの富士

大驟雨  
翠藍ガラスの大驟雨  
降りそぞぐそぞぐ

富士山

作品第貳拾壹

(草野心平)

小野 雅韶





泥 中 の 蓮

今井 利幸



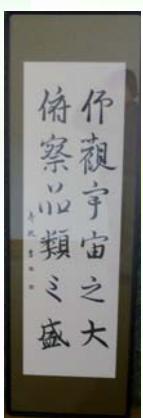
仰觀宇宙之大  
俯察品類之盛

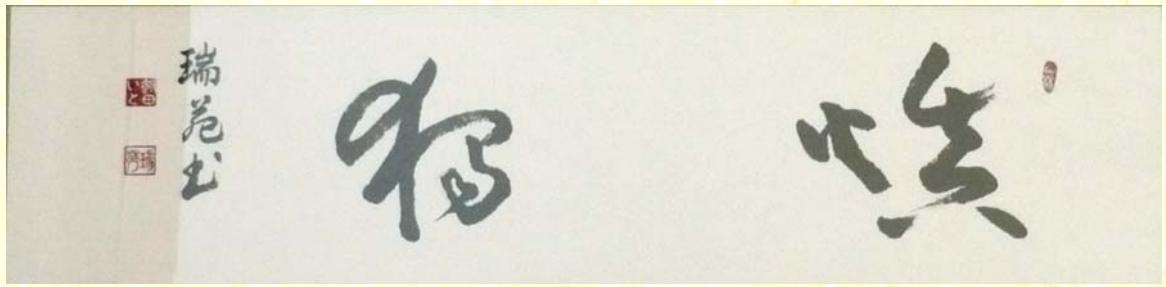
壽教吉

仰いで宇宙の大俯を観  
品類の盛んなるを察す

(蘭亭序)

北村 寿教

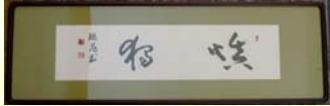




独りを慎む

(大学)

飯田 瑞苑



夕山白雲今夕たむら、  
惟月の名立不連アマノル

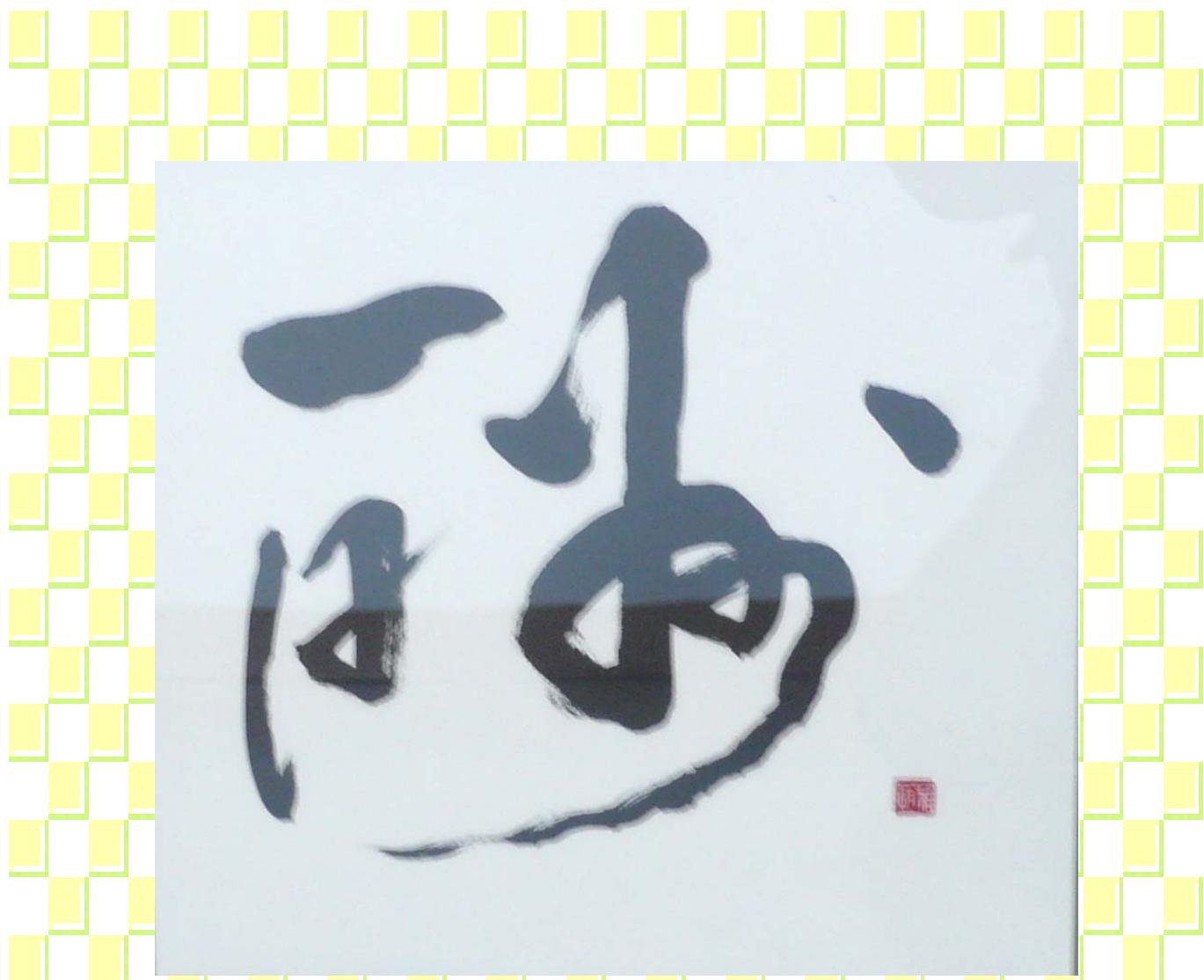
種子山

夕べに臥せば白雲合し  
惟だ心の長に在る有り  
朝に起くれば白雲開く  
雲に隨いて去来せず

(高啓)

池田 敏子

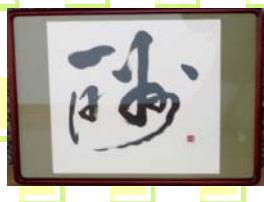
夕山白雲今夕たむら、  
惟月の名立不連アマノル



酬

田中

雅恒

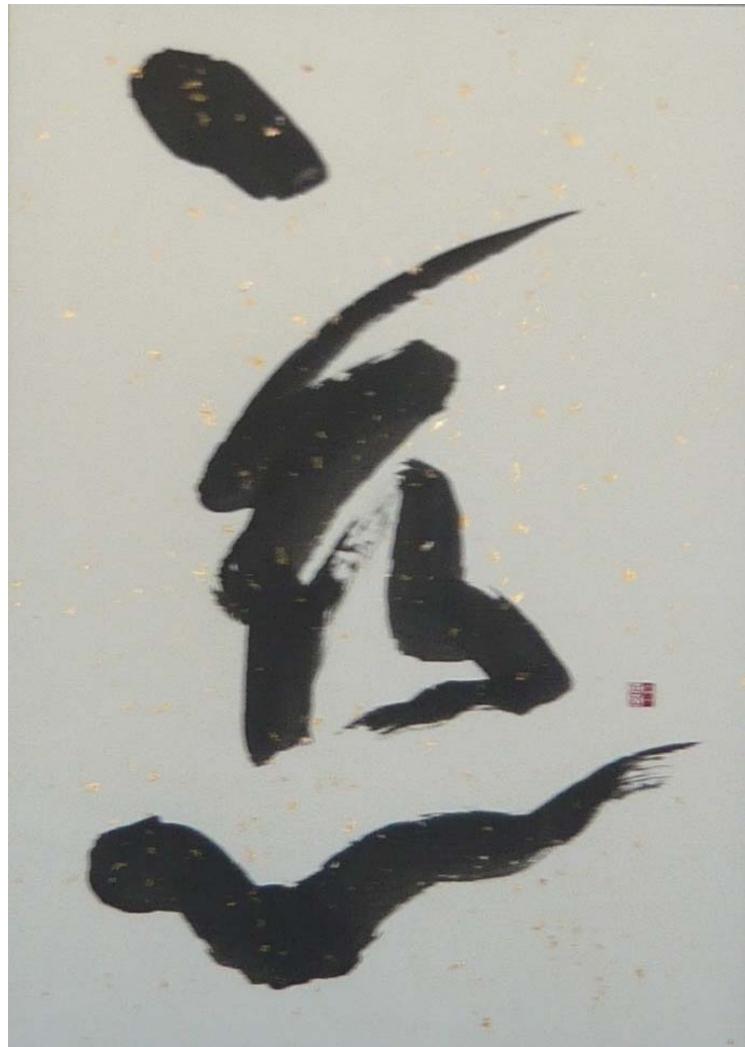




玄游社

京都市山科区竹鼻竹の街道町七二

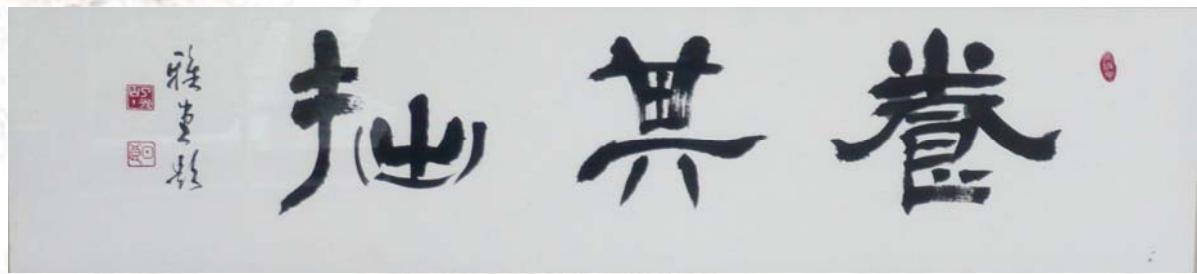
上田 雅堂



慈

上田  
雅堂



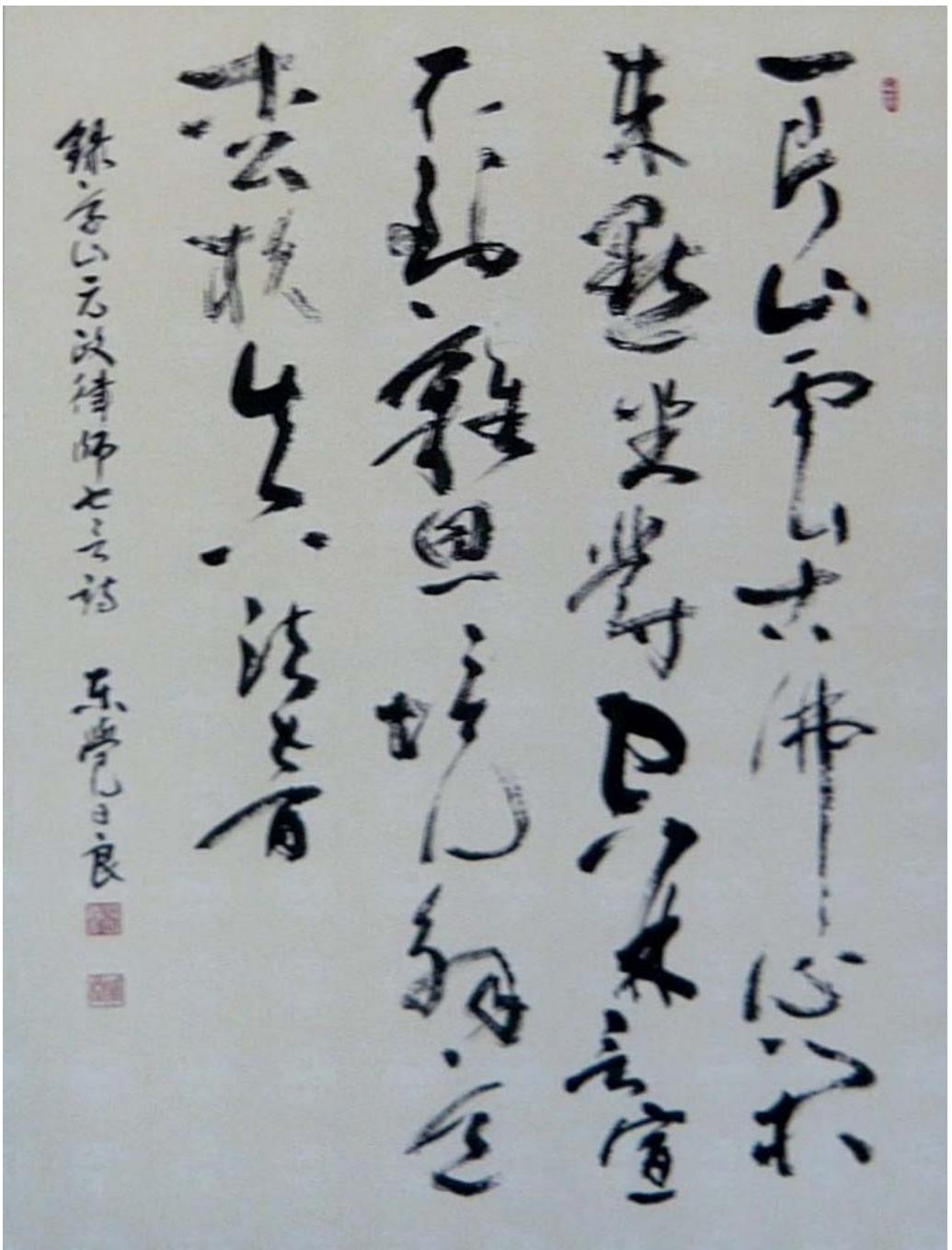


其の拙を養う

(吳鎮)

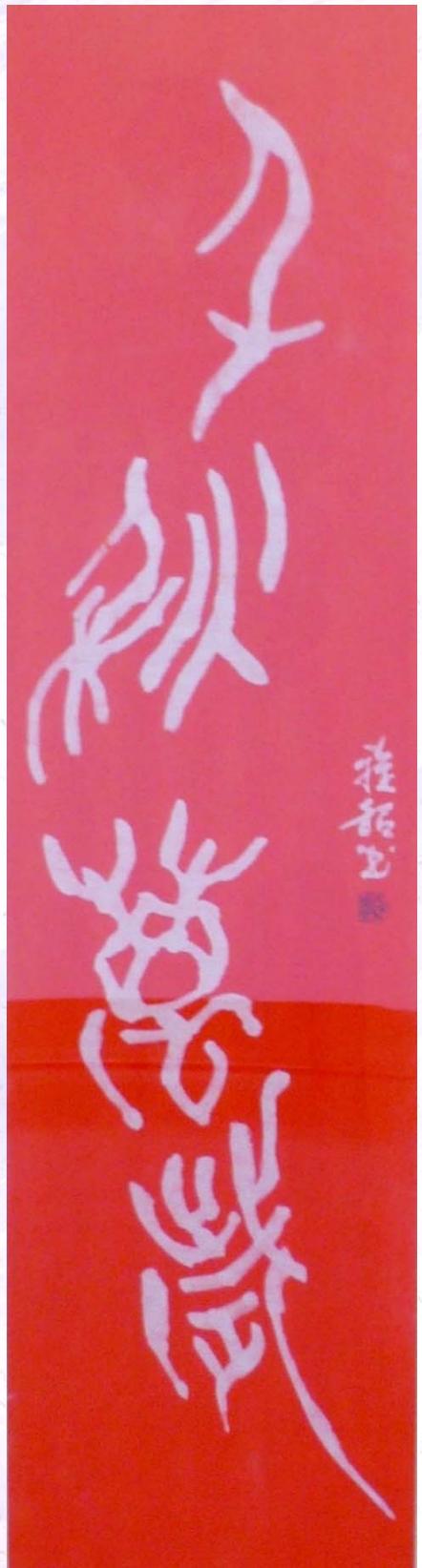
上田  
雅堂





一片の山雲古佛の心  
閑來黙坐して空林に對す  
道宣到らず難思の境  
朱毫坐佛也。  
(元政)

上田 雅堂

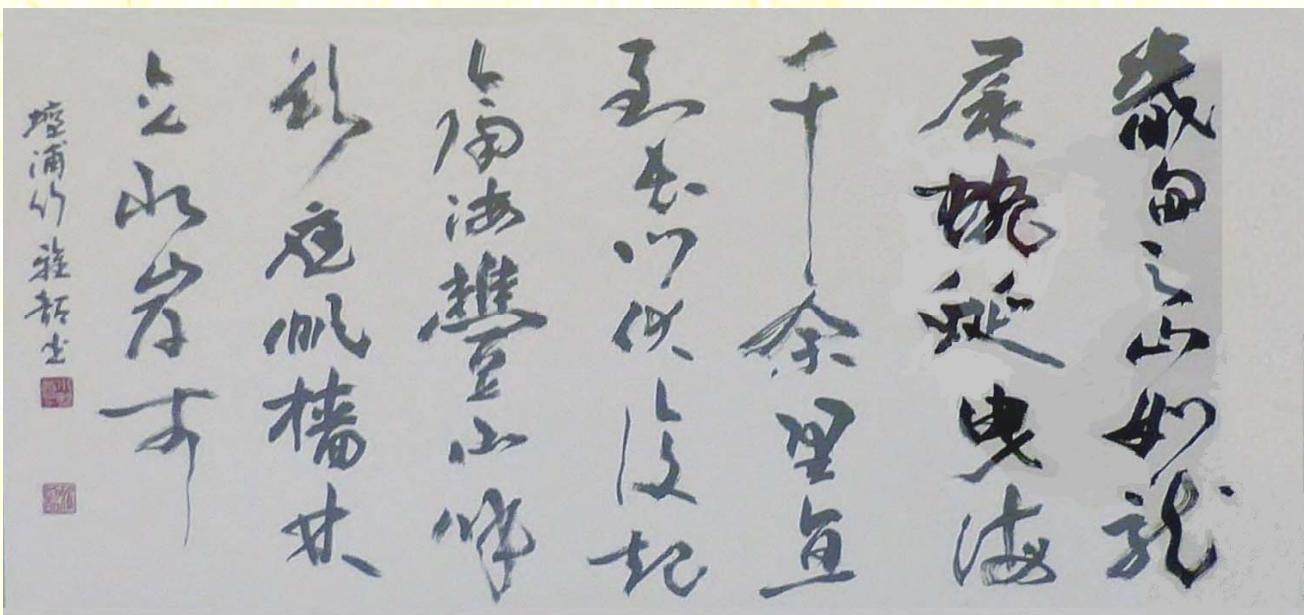


千秋萬歲

(瓦當文)

小野雅韶





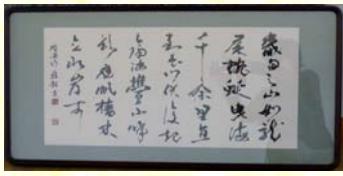
巻山山妙哉  
辰鳴延曳波  
千余里直  
玉もつ以は北  
南浦豊山呼  
鈔魚帆檣木  
上山行す

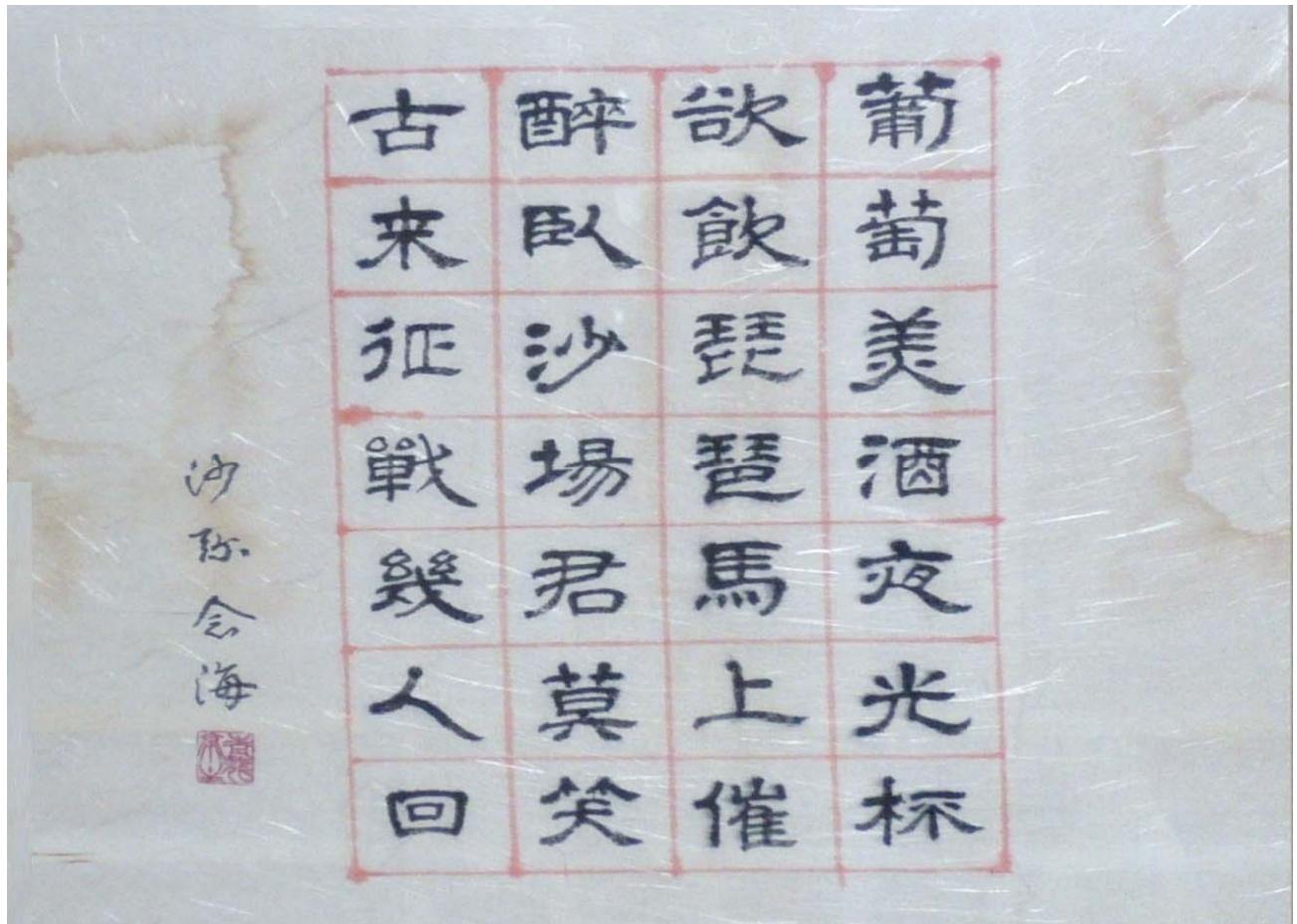
蜿蜒甸の山は龍尾の如く  
として海に曳くこと千余里  
直ちに長門に到りて伏して復た起ち  
帆檣林立する豊山呼べば膺へんと欲す  
北岸の市

壇浦行 I

(頼山陽)

小野 雅韶





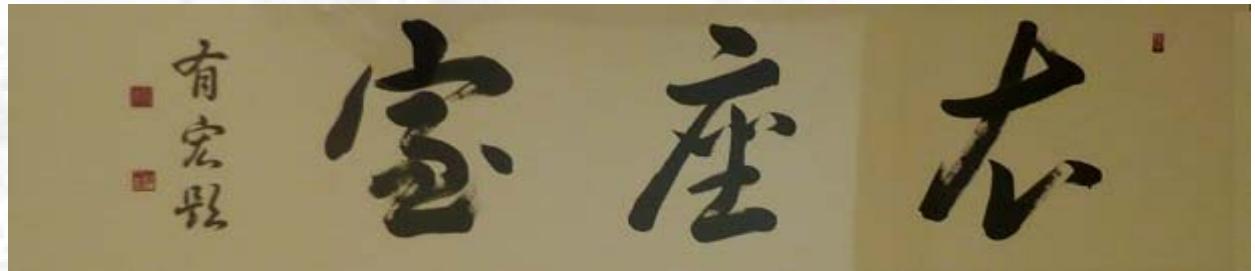
葡萄の美酒  
 飲まんと欲し  
 酔うて沙場に臥すとも  
 古来征戦幾人か回る

(王翰)

馬上に催す  
 君笑う莫れす

青山 念海





衣  
座  
室

(法華經)

日暮  
有宏



夫子膺五緯之

精踵千年之聖

雅

香

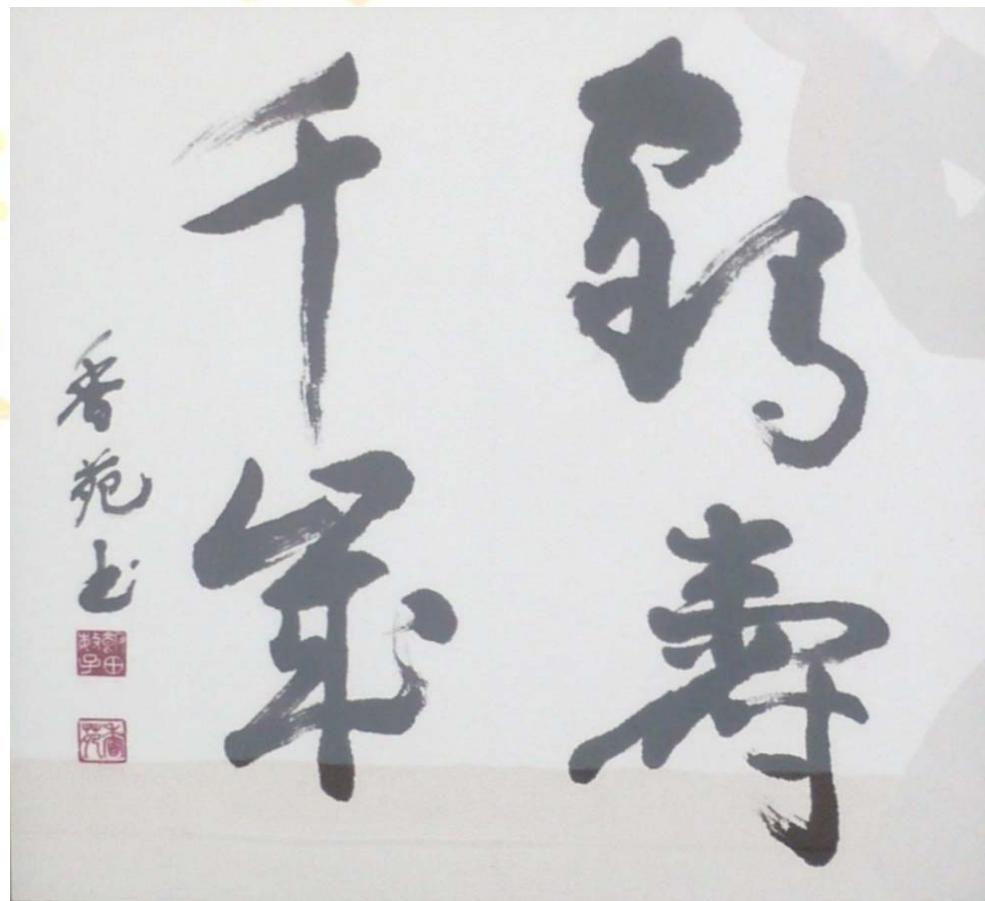
臨書

夫子は五經之精を膺け  
千年之聖を踵ぐ  
(孔子廟堂碑)

菊岡

雅香

夫子膺五緯之  
精踵千年之聖



鶴壽千歲

飯田  
香苑



春色恼人時  
不見月移  
也奈何一樣平

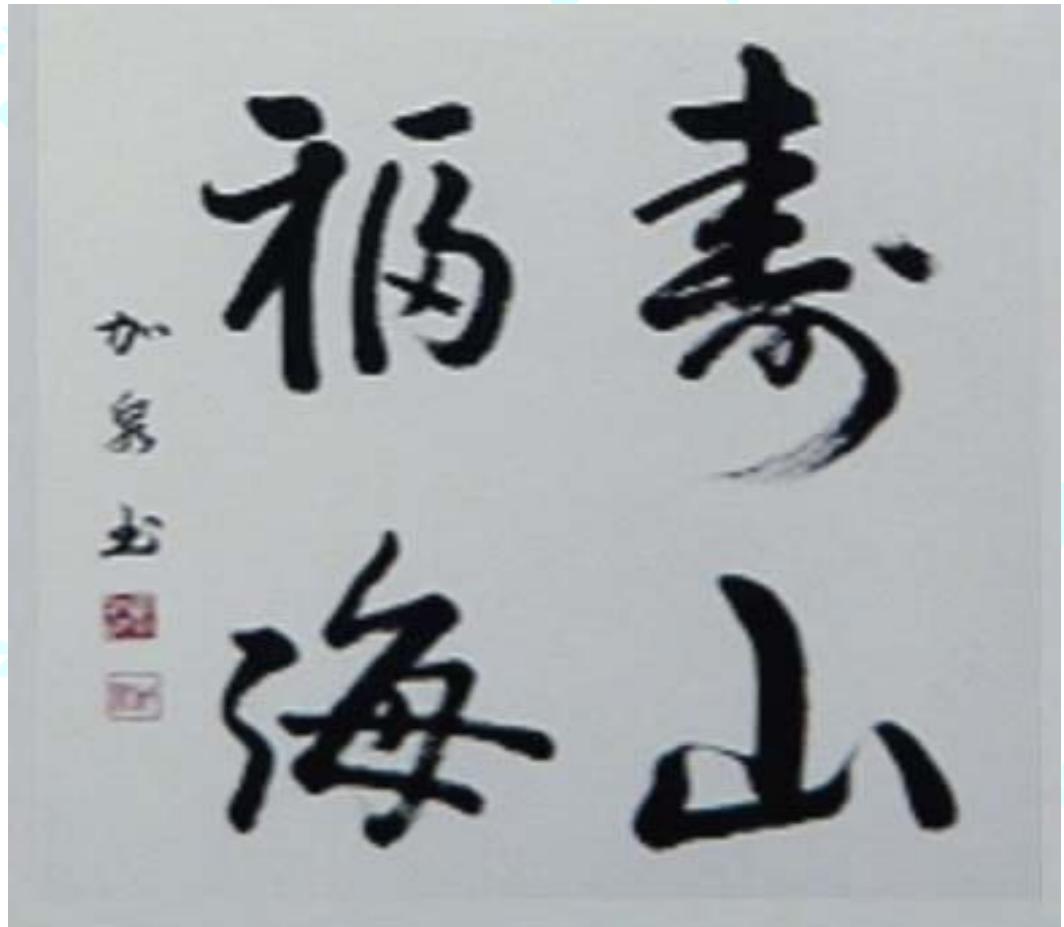
龍溪先生題

春色人を恼まして眠り得ず  
月は花影を移して欄干に上らしむ

(王安石)

小田 艷翠

春色恼人時  
不見月移  
也奈何一樣平



壽山福海

西谷  
加泉





GENYUSYA  
2014/3